

応募用紙「土木広報大賞 2023」

団体名：「ドボクのラジオ」運営グループ（公益社団法人土木学会土木広報センター、株式会社建設技術研究所、中央エフエム株式会社）

応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input checked="" type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input type="checkbox"/> 企画部門

土木広報活動または作品名：インフラバラエティ番組「ドボクのラジオ」

広報活動または作品の概要：

番組について



「ドボクのラジオ」(略称：ドボラジ)は、土木関係者や土木好きの方をゲストにお迎えし、インフラに関する旬な話題や土木の魅力を、わかりやすく、そして熱く語っていただくインフラバラエティ番組です。市民の皆さんに、少しでも土木に興味を持っていただき、土木を身近に感じてもらうキッカケとなるような情報を発信しています。中央区のコミュニティ FM である「中央エフエム」で、毎週水曜 20:00～20:30（再放送：毎週日曜 12:00～12:30）に放送しています。放送開始から4年半が経過し、2023年10月31日現在、再放送を除き 230回を放送しました。



提供：(公社)土木学会、(株)建設技術研究所、関東学院大学、(株)キャリア・ナビゲーション、清水建設(株)、(株)竹中土木、三井住友建設(株)、理工図書(株)

番組制作：(公社)土木学会土木広報センター、(株)建設技術研究所、中央エフエム(株)

運営協力：(一財)建設物価調査会 ※提供・番組制作・運営協力は2023年10月31日現在

番組を聴くには

東京都中央区および周辺の区では FM ラジオ **84.0MHz**にてお聴きいただけます。他のエリアでは、PCでは「ListenRadio」のサイト、スマートフォンでは無料アプリ「ListenRadio」でお聴きいただけます。また、全ての放送回の録音は、番組ホームページ(付属資料①)と番組YouTubeチャンネル(付属資料②)でお聴きいただけます。



番組運営上の工夫

- ①難しい言葉は説明を加えたり平易な言葉に言い換えるなど、リスナーに「伝わる」表現を使います。
- ②「これもドボクなの?」と驚かれるような、幅広いジャンルからテーマを選定しています。
- ③ゲストの緊張を解きつつ自然なトークとなるよう、パーソナリティの質問方法に工夫をしています。
- ④番組開始時から、ロゴマーク、テーマ曲、CM曲は番組オリジナルのものを制作し使用しています。

受賞歴

デミーとマツの土木広報大賞 2020 優秀賞 3位 (写真・映像部門)

広報活動または作品の効果：

(1)「ドボクのラジオ」は社会貢献活動である

以下の 1)～3)について、2022 年 6 月に開催された関東放送シンポジウム「ラジオによる地域社会への貢献」(主催：総務省関東総合通信局)で講師の 1 人としてお話ししました。その要点が動画(付属資料③ 10 分 44 秒以降)で公開されています。

1)市民生活への貢献

番組を放送している中央エフエムは中央区のコミュニティ FM 局であり、非常時などには地域の情報源として重要な役割を担っています。非常時に市民にラジオを聴いていただくためには、普段からラジオに親しんでいただけことが重要です。「ハザードマップを確認してください」のような直接的な情報伝達や「～について解説します」のような教養番組風では、一般のリスナーを増やすのは困難と考えました。そこで、間接的な情報の伝え方ではありますが、バラエティ番組という形で表現することにしました。また、ドボクとコミュニティ FM は親和性が高いのです。土木構造物は「一品特注生産」であり、それは地域に根ざしています。地域を知ること、まちを知ることとは、日常だけでなく非常時にも関心を持つことにつながる、ということです。市民のドボクに対する関心が高まれば、インフラの質が高まり、市民の幸せにつながります。



第 219 回 2023. 8. 9 放送
「元気丸のドボクのラジオ (パート 6)」

2)「ドボク LOVE」への貢献

ダムカード、マンホールの蓋、重機、ダムや橋・ジャンクションなどの巨大構造物、大人の社会科見学、インフラツーリズムなど、これらのファンの皆さんが SNS などで配信をする事例をよく見かけるようになりました。こうした熱い皆さんの知的好奇心に応えるのも、番組の重要な役目です。



第 174 回 2022. 9. 28 放送
「東京スカイツリーに登ってみた」

3)社会を支える多くのエンジニアに光を

建築とは異なり、ドボクはプロジェクトに携わった人の名前が公開されることが、ほとんどありません。これはとても残念なことです。技術者が働いている姿や話している姿を、市民に見て聴いていただいで評価していただくことで、エンジニアに自信と誇りを持ってほしい。そして、子どもが憧れる職業になってほしいという思いがあります。番組では 200 名を超えるゲストの皆さまを紹介してきました。

(2)「ドボクのラジオ」は人材育成の教材になる

若手技術者がプロフェッショナルとして成長するためには、自分の専門分野の技術のみならず、幅広い分野の知識や技術を習得し、社会への関心を持ち続ける必要があります。しかし、そのために人に会う約束をしたり、社外からゲストを呼んで講演会を開催したりするのは大変な労力がかかります。

「ドボクのラジオ」に出演されたゲストのお話は、通常身の回りで聴くことができない貴重なものが多々あります。全ての放送回の録音が番組ホームページ(付属資料①)と番組 YouTube チャンネル(付属資料②)でお聴きいただくことができるため、若手技術者の人材育成の教材に活用できると考えています。

以上